

報 告 書

開 催 日 時	令和5年2月15日（水）10時00分～11時30分	
開 催 場 所	第1常任委員会室	
出 席 委 員	川井弘光委員長、太田哲副委員長、三島進委員、石倉徳章委員、 米田ときこ委員、錦織伸行委員、小澤一竜委員	
	報 告 者	川井弘光委員長
	司 会 者	太田哲副委員長
欠 席 委 員	なし	
参 加 人 数	市内の各旅館業組合 代表者 3名	
主 な 意 見 等	①松江エリアの現状と今後の課題について ○参加者： この3年間はジェットコースターに乗っているような感じだった。業界を離れる従業員もたくさんあり、働き方改革をどのようにしていくのかを見つめ直す機会にもなった。様々な場面でリモートが急速に広がり、簡単な出張であればリモートで済ますなど、人々の行動様式が変わってきたこともある。経済活動や行動様式などが急速に変わっていく状況の中で、どのように受入れ態勢をとっていくかこれからの課題だと考えている。 ○参加者： 全国旅行支援といった制度は先物食いということが言える。これまで50%の補助だったものが20%の補助になると、モチベーション、動機付けの面では少し薄れてきているところがある。5月8日以降は5類に移行し、行動制限の解除に異論がなくなり良い方向に向かうのではと考えている。 ○参加者： 支出に関して電気代や物価が上がってきており、可処分所得が減っている中で、今後補助金のインセンティブがなくなったとき、果たして旅行に行くのか。これまで先物食いでやってきた反動があることは予想されるところであり、これから国は各市、県に補助を出すと思われるので、それを基にしながら大体6月ぐらいまでは予算化できるだろうと考えている。その後7月、8月と夏休みに入りある程度の動きが出て、9月から11月にかけて行楽シーズンを迎えてまたさらに動くのではと考えている。 ○参加者： 松江市などの日本海側では冬季対策をしなければならない。今後、経済が少し疲弊してくると思うので、それに対して何らかのアプローチを打ち続けなければ、なかなか自力で回復していくことは難しいと考えている。	

○参加者： 松江がユニバーサルツーリズムの先進地であるべきだと思っている。ハード整備として、高付加価値補助金を活用しユニバーサルデザインとするための改修工事を進めたほか、ソフト整備としてあいサポート研修を 250 名が受けた。この高付加価値補助金について、まちなかの飲食店や土産物店など、いろいろなところに声掛けしていただきたいと考えている。補助金を活用して改修工事等を進めていただき、松江市全体がユニバーサルデザインとなることでユニバーサルツーリズムの先進地を目指していきたいと考えている。ユニバーサルツーリズムの取組は、障害のあるなしだけではなく、外国人の方にもやさしいまちであることも語源の一つであることから、インバウンド対策としても力を入れていきたいと考えている。

○参加者： 朝晩のタクシーが足りない。タクシー会社に説明を聞くと、働き方改革などの影響で運転手の確保が難しくなっているとのことで、飲み会に参加しない方やノンアルコールで済ます方が増えるなど、相当な程度の経済効果が失われている。この問題を解消する手だてを立てなければ、飲食、宿泊、観光に大きな打撃を受ける可能性があることを認識いただきたいと思っている。

②玉造エリアの現状と今後の課題について

○参加者： 玉造でもタクシーなどの交通の面に関して課題がある。冬場はマイカーを控えるお客様もあり、また J R を利用するお客様も増えるが、玉造温泉駅までの路線バス乗り入れは随分前に廃止となり、現状は各宿泊施設がそれぞれの車両を出して送迎している。玉造温泉駅前ロータリーもそれほど広くなく非常に混雑しているほか、一部タクシー会社からはそういった送迎サービスは困る、というような意見も寄せられている。

○参加者： 玉造温泉の令和 4 年の利用者は約 35 万人で、2019 年と比べ 7 割を少し切るところまでは回復した。以前は団体旅行等が相当数あったが、コロナ禍によってほとんどなくなってしまっている。今後団体旅行への需要が戻ることは現実的でないかもしれないと考えている。

○参加者： 松江市で作られた総合計画の玉造版のようなものとして、わくわく玉造温泉会議という会を立ち上げた。玉造温泉の魅力を再発見し、まち全体を作り直していくということで、住んでよし、訪れてよしのまちづくりを目指して取り組んでいる最中になる。

○参加者： 高付加価値事業に関して、玉造では6件実施した。飲食店、物販のお店は今回事業に参加されなかったもので、来年度はそういった店舗にも声掛けをして玉造全体をリニューアルしていけたらと考えている。

○参加者： ゆ〜ゆという外来の入浴施設について、立地上どうしても観光客、県外のお客様の利用が多く、市内の同様の施設に比べて利用客の落ち込みが大きくなっている。対策としてコンサートなどのイベントを行うなどしており、今までどちらかといえば観光宿泊客の方を取り込むことが中心だったが、わくわく玉造温泉会議のテーマの一つとして、様々な方に対してイベント等が開催できることを周知することがあり、地元の方にも利用してもらうような取組を進めている。

○参加者： 新たな取組として、松江市立病院の研修医の方が薬膳という合同会社を立ち上げられた。薬膳のお酒、お茶といった商品を扱う会社で、これを玉造で活用できないかという取組を進めている。美肌の湯ということで全国的に有名だが、そうした温泉と薬膳を絡めたインナーケアとして玉造の新しい魅力になればと考えており、いくつかの施設で商品の紹介コーナーを設置する予定としている。

○参加者： 玉造は宿泊客が松江市内の夜のイベントへの参加が移動手段の面でも難しいところがあり、ある程度玉造内で完結せざるをえないような宿泊地になる。玉造の魅力をどう高めてどう発信していくか、また、それに関連して松江市にどのように御理解、御支援をいただくか取組を進めていくところになる。

③美保関エリアの現状と今後の課題について

○参加者： 美保関も他のエリアと同じく、コロナの影響によりお客様の来る、来ないがくっきり分かれる状態が続いており、特に美保関では客足が途絶えると旅館の灯が全く消えてしまう状況にある。コロナ以前の10年間で美保神社の来場者数が10万人から50万人ぐらいに増加するなど、とても好調だったところにコロナで打撃を受けたことになる。また、コロナ禍で周りが全く動かない中でも、美保関の特徴として釣りのお客様と美保神社参拝のお客様が一定数あり、その点では独特な環境なのかなと考えている。

○参加者： ここ半年ほど各旅館、商店が常時9件ぐらい工事している関係で工事車両が多く出入りしており、以前からの懸案であった駐車場問題が起こりつつある。お盆、正月、ゴールデンウィークといった時期はピストンバスを出して対応している

が、何らかの対策をとらなければならない。現在は灯台の駐車場と廃校となった小学校のグラウンドに車をとめ、ピストン輸送を行い対応している。

○参加者： 美保関は、重要伝統的建造物群、いわゆる重伝建に取り組んでおり、簡単な組織を立ち上げる形で話をしている。コロナ禍において前を向いて走れる大きな原動力になっていると考えており、高付加価値事業による改修についてもノスタルジックな改修がテーマになっていることから、その良さを追求していけたらということで動いている。

○参加者： グリーンスローモビリティとして、カートを使った二次交通の補助を美保関支所と観光協会とで一緒に考えている。周辺に何か所かある限界集落の交通弱者の助けになるとともに、観光の面でも灯台まで行く二次交通がないため、そういったところに使えばかなり有効ではないかと考えており、試行錯誤しながら皆さんの御指導も仰ぎたいと考えている。

○参加者： 美保関の旅館組合では3年ぐらい前から世代交代して若手に変わりつつあり、毎月集まるようにしている。その中で、電気料金が増えて大変だという話が出てきている。旅館が稼働していないにもかかわらず電気代が上がっているという話もあり、現在改修中の旅館が稼働すればさらに電気代は上がると思われるので、対策が必要だと考えている。

○参加者： 美保関の青石畳通りは商店街で、現在4件行っている商店の改修がその復活の契機になるのではと考えている。重伝建とグリーンスローモビリティ、そして高付加価値事業での改修をかけ合わせ、美保関の大きな売りになるのではと考えている。

④観光戦略プランについて

○参加者： 観光戦略プランについて、2030年の観光宿泊客数の目標として250万人とあるが、この達成のためにはホテル数、旅館数がいかに増えるかにあると考えている。新たに宿泊施設が増えれば、これまで週末に満室で断っていた部分を受け入れることができるので、当然観光宿泊客数は増える。ただし、むやみに開発しホテルや旅館が増えていくことは余り望ましくなく、適度な増え方であることが松江の観光宿泊客数においては必要だと考えている。

○参加者： 観光戦略プランの策定に携わる中で、松江市の魅力としてお城やその城下があり、水の流れや四季の移り変わりなどがあり、皆さんはそれを郷土として愛し、その自分たちの文化

をたくさんの方に知っていただきたいという思いが非常に強いということを感じた。これまでのように提言書を出して終わりとならないようにするとともに、一般市民が見ても分かりやすいよう、文字は少なく、写真を多く、そして写真には人物が入るよう注意を払った。このプランを基に、小学校、中学校、高等学校などの教育の現場で、松江は観光のまちであることを発信していただくよう市長にお願いした。

○参加者： 県外の方との話で、若者が外に出てしまうのは何故かという話になり「地域の大人が『こんな街つまらない』というから出ていってしまう。」と言うと、どの地域も同じような状況であった。まず大人からこのまちはすばらしいと子どもたちに言わなければ、子どもたちは絶対にそうとは思わず、また帰ってこようとは思わない。今回の観光のテーマを含めて、子どもたちやいろいろな方に松江の魅力を伝えていくことが大事だと考えている。

○参加者： 松江市は派手な観光地ではないため、施策を打ち出す際に目玉となるものが出づらく、薄く広くなる傾向があると感じている。策定に携わる中で、皆さんが古くていいものが残っている点と、人をすごく大切にする点についてたくさんの意見が出ていたのが印象的だった。来ていただいたお客様にいい接客や案内ができれば、それだけで観光地の印象は違ったものになる。一人一人がインフルエンサーというわけではないが、人の持つ力のすごさが改めて感じられた会だった。観光のPRの手法に関しては大きく早く変わっていくので、今後定期的に検討する機会があればよいと考えている。

○参加者： これまでと違う視点として、外国人も訪れないようなまちに日本人は訪れないという点がある。今までは外国人と日本人とで別の観点でプロモーションを行っていたが、外国人が訪れるようになれば日本人も訪れるという考え方に変わった。

⑤その他の意見について

○参加者： ある程度の距離のところに駐車場があり、そこから観光地までの間にお金を落とす仕組みがきちんとあることが一番望ましい。料金については一律ではなく、近い駐車場は高く、遠くの駐車場は安くするなど、駐車場の問題については経済効果との両輪で考えていかなければならないと考えている。

●議 員： 個人タクシーについて、松江市の場合は協定を結んでおり、その許可をしないというのが基本原則のようになっている。今後市内のタクシー事業者に向けて、会社の統廃合等が

	あれば車両の登録数を減じていただくことなどを、商工会議所を通じてお願いしたいとも考えており、地域経済のためにも大変重要だと思っている。 ●議員： 観光客数が以前のように戻ることは厳しいと考えている。大型の団体客はこれから見込めないと考えており、値段が高くともいいものを出して、いわゆる旅館の方がお客様を設定するという時代がもうそこまで来ていると考えている。 ○参加者： 高単価、高品質のサービスを提供することは非常に重要だと考えおり、人口減少の中で数よりも質を追いかけていくことに注意を払っていこうと考えている。 ○参加者： 松江駅前周辺で夕食を伴ったホテルは一軒しかない。ホテルの宿泊者はまちなかに出かけて夕食をとることとなり、伊勢宮町や東本町などへの経済効果は大いにあると考えられるが、これまでにそういった部分での連携がなされていないので、うまく連携を取らなければならないと考えている。 ○参加者： マイクロツーリズムの取組をきっかけに松江市内の方が市内の旅館・ホテルを利用することとなった。大きな割引があったこともあり、たくさんの方に使っていただき非常に効果があったと思っている。地元の方に市内の旅館を知っていただき、楽しんでいただけた良い機会になったと考えている。 ○参加者： マイクロツーリズムについて、美保関でも地元学生の修学旅行先としての利用があり、子どもたちのふるさとに対する思いにも変化が生まれるのではないかと感じた。また、近年空き家が増えており、うまく使えばいい商品になる家を取り壊されていく現状を目の当たりにしている。青石畳通りにも空き家があり、これが解体されることになれば風景としても穴が開いてしまうので、空き家対策として有効に使う施策があればと思う。
--	--

松江市議会議長 様

令和 5 年 2 月 28 日

議会基本条例第 7 条の規定により議会報告会(意見交換会)を実施しましたので報告します。

令和 4 年度 議会報告会(意見交換会)

経済委員会委員長 川 井 弘 光